



## 「なぜ」がわかる！ 胃炎・胃癌の内視鏡診断

八木一芳 / 著，味岡洋一 / 病理監修

B5 判 / 177 頁 定価 7,700 円（本体 7,000 円＋税10%） ISBN 978-4-7581-1083-9  
羊土社，2024 年 10 月 25 日発行

評者 土肥 統

京都府立医科大学大学院医学研究科 消化器内科学

本書は八木一芳先生が執筆された最新の「胃炎」「胃癌」の内視鏡診断に関する書籍である。本書を読みながら、八木一芳先生とはじめてお話しさせていただいた 2015 年の新潟拡大内視鏡研究会のことを思い出している。病理医の岸本光夫先生に、「八木一芳先生の研究会は、凄く面白いし楽しいからぜひ参加したほうがいい」と勧められ、一緒に新潟まで足を運んだ。研究会は、提示症例の読影、次に病理解説、さらにそこから内視鏡所見と病理所見の対比を熱くディスカッションし、1 時間以上かけて 1 症例を楽しむという目からウロコの内容であった。そして研究会のディスカッションについていけないことに愕然とし、その後八木先生の著書をくり返し読んで、勉強したものだ。

胃拡大内視鏡の成書というべき『胃の拡大内視鏡診断』、『胃の拡大内視鏡診断 第 2 版』、『*H. pylori* 除菌後発見胃癌の内視鏡診断』（すべて医学書院より発行）につづき、本書は、「なぜ」がわかるために、八木先生が考案した「RAC」「White zone」など拡大内視鏡の基本か

ら、除菌前後の胃粘膜、除菌後発生胃癌、未感染胃癌の拡大像の特徴など、さまざまな所見が症例ごとに拡大像と組織像との対比をしながら詳しく解説されている。さらに、胃癌と CDX2 発現の検討、除菌後発見胃癌における非癌表層上皮の由来など、八木先生のこれまでの研究内容がぎっしり詰まった集大成というべき著書であると感じる。また、本書の特徴としてこれまでと異なり、著者に扮したポップなキャラクターの対話形式やミニレクチャーが盛り込まれており、初学者にも読みやすく、取っ付きやすい内容になっている。

胃拡大内視鏡を黎明期から取り組まれ、極められたスーパーエキスパートが全力で執筆し、かつわかりやすい解説が魅力の本書は、初学者からエキスパートまでぜひ手にとって一読いただきたい 1 冊であるとお勧めしたい。本書を読んで、少しでも「なぜ」がわかるようになり、拡大内視鏡の面白さを感じていただきたいと切に思う。